



# すまいるだより

## 「ずるくないよ」

### vol 13

【子育ての「相談」】  
子育て世代包括支援センター  
「えがお」（健康福祉課内）  
電話 0241(62)6170  
メール [egao@minamitaku.or.jp](mailto:egao@minamitaku.or.jp)

**子** 育て世代包括支援センター「えがお」には、日々の子育てやお子さんの成長・発達に関する相談が寄せられます。相談される保護者の方は、「こんなことで連絡してもよいのでしょうか・・・」と不安そうですが、私たちスタッフは、「どんな些細なことでも連絡をいただきたい」と思っています。遠慮せず、いつでも気軽に「ご連絡ください」。

「見通しが立つと安心する」「目に見える文字やイラストで伝えると理解しやすい」という傾向を活用します。また、じっとしていることが苦手な子どもは、「身体を動かす役割を与えてみる」ことも効果的です。

**さ** て今回は、「えがお」のスタッフが気になっている「合理的配慮」をお伝えします。

**こ** のように、周囲が少しの手助けをすることで、子どもが学びやすくなることが明らかですが、一方で「楽することを覚えてしまわないか」「周りからずるいと言われないだろうか」という不安や悩みもあはらずです。

**子** どもが日々の生活の中で「困っている」「うまくいかない」ことがあるとき、子育て支援の専門家は「少しの工夫を上手に使う」ことをお勧めしています。

**そ** して、そのように思う多くの方は、まじめで努力を続け、できないことができるようになった喜びを知っている人のように思います。しかし、努力をし続けても、できないことがある人たちが実際に存在しています。

**例** えば、少しの変化に不安を感じやすい子どもは、

**最** 近では、世界中で「合理的配慮」という考えが普及してきました。これは、子どもが学びやすくなるための工夫をするということです。すでに町内の学校や保育所、幼稚園では、この「合理的配慮」という考え方を取り入れているところが増えています。

**子** どもたちは一人一人、誰もが違った個性を持っています。得意なことでも苦手なこともある中で、周囲と同じ方法や同じペースで学ぶことが難しい場合もあります。そんなとき、視力の悪い人がメガネをかけるように、その子にぴったりの方法が見つければ、きっと学びやすくなるはずですよ。

**子** どもは、日々一生懸命に努力しています。しかし、どんなに頑張っても一向に報われず、その理由もわからずに自信を失うことがあります。そこに生まれる自尊心の傷つきや低い自己評価は、劣等感や挫折感につながり、反抗的な態度として現れることがあります。



**生** 活に「つまづきを感じたときは、「本人が努力すればできるようになる」という誤解をなくすることが大切です。コミュニケーションの苦手さ、運動や手先の不器用さ、読み書きの遅さなど、困っているときはぴったりの方法を探りましょう。

**私** たち「えがお」のスタッフも、子どもが日々の生活の中で困っていることやうまくいかないことがあるときは、少しの工夫をうまく使うようにお勧めしています。そして、そのお子さんにとって本当に必要な支援は「ずるくないよ」とお伝えすることです。

**子** どもの力や学びの工夫を知る手段がたくさんありますので、ご家庭だけで悩まずに遠慮なくご相談ください。



【おすすめ図書】  
「つながる! にかでまかえる? まほうのくふう」  
しまだようこ・作 井上雅彦・監修